

リーフレット「協働によるまちづくり 仙台」について

1. 前回委員会でのご意見

- ・わかりやすい表現及びデザインを用いる。
(漢字や日常会話で使用しない用語を減らす、なじみのない事業名の解説を行う、手に取りやすいデザインとする等)
- ・協働をイメージし、活動への参加を促すことができる内容とする。
- ・東日本大震災から 10 年の本市の協働のあゆみを伝える。
- ・QR コードを活用するなど、既存のデジタルコンテンツへの誘導を図る。

2. 修正のポイント

(1) 全体及び表紙

- ・気軽に手に取っていただけるよう、A4 から B5 に仕上がりサイズを縮小し、三つ折りにすることで紙面のボリュームを確保。文章表現についても、全面的に見直しを行う。
- ・表紙は、タイトル以外の文章をなくし、華やかで目を引くパターンデザインを採用。
- ・仙台市経済局が実施する若手クリエイターとのマッチング促進事業「So-So Lab.」を活用し、市内在住のデザイナー黒川美怜（くろかわみさと）氏を起用。
デザインコンセプト：カラフルな円は多様な主体を、それらをつなぐ黄色い図形はネットワークを表現。たくさんのネットワークが構築されていく協働のイメージを、さまざまな形のつながりで表している。

(2) 協働を進める仙台のまちづくり

- ・前回委員会まで表紙に配置していた内容を中面に移動。
- ・「協働」を簡潔に解説し、詳細は既存コンテンツの「手引き・事例集」に掲載されていることを紹介。
- ・協働をイメージしていただくため、市民の方に身近な事例として、島田委員が会長を務める川平町内会の取組みを紹介。

(3) 仙台の協働のあゆみ

- ・東日本大震災以降の取組みの変遷がわかるように、導入の解説を見直した。
- ・年表と解説の対応をわかりやすくするため、カテゴリに①～③の番号を振るとともに、年表に掲載されている名称の解説部分を、マーカーで目立たせる。
- ・各解説に見出しを付けることで、読みやすさに配慮。

(4) 今後に向けて（仮）

- ・第 3 期委員会において審議を行った「多様な主体がつながり協働が生み出される環境の構築に向けて」に対していただいたご意見の要素を盛り込みながら風見委員長に執筆いただく。
- ・イラストコンセプト：市内各所で展開される協働の活動を、抽象的に表現。各所でさまざまな人がそれぞれの価値観で、まちを豊かにしようと考え、動き回る姿を表現している。

(5) インフォメーション

- ・各インフォメーションの紹介文を短くし、要点を箇条書きにすることで読みやすさに配慮。
- ・各インフォメーションに QR コードを設置し、既存のデジタルコンテンツへ誘導。

3. 広報

- ・協働ナビゲーションサイト「できるよ！仙台」にリーフレットのPDFを掲載するほか、仙台市ホームページ、市民活動サポートセンターホームページ等からもアクセスできるようにリンクを掲載。
- ・市政だよりにお知らせを掲載。
- ・市内公共施設で配布（今年度 500 部印刷）。

主な配布先：市民活動サポートセンター、NPOプラザ、区役所・総合支所、市民のへや、各中央市民センター、各図書館、各ボランティアセンター、エル・パーク、エル・ソーラ

- ・協働関連イベントで周知。

令和2年度開催イベント（予定）：

- ・市民協働事業提案制度 中間報告会
- ・市民協働事業提案制度 実施報告会
- ・市民協働事業提案制度 公開プレゼンテーション
- ・協働まちづくり推進助成事業 中間報告会
- ・協働まちづくり推進助成事業 報告会
- ・仙台若者アワード
- ・(仮称) まちづくり若者会議
- ・せんだい市民カフェ